

- ・ ボス

ベリアル(Berial)

バエル(Bael)

ダゴン(Dagon)

エキドナ(Echidna)

アグナス(Agnus)

アンジェロアグナス(Angelo Agnus)

アンジェロクレド(Angelo Credo)

神(The Savior)

- 偽神(The False Savior)

サンクトゥス(Sanctus)

魔皇サンクトゥス(Sanctus Diabolica)

ダンテ(Dante)

ボス

ベリアル(Berial)

魔界の中でも特に苛酷とされる炎獄で生まれ育った悪魔。かつては魔界の帝王に仕えていたが、魔帝が封印された後は炎獄の覇者として君臨していた。その体は灼熱の炎で覆われており、触れることさえかなわない。身を包む炎は、ベリアルが放出する魔力によって生み出され、鎧の役目を果している。それ故、その炎が失われている間の防御は脆い。

バエル(Bael)

魔界の各地に暮らす悪魔の一族。放出したガスで身を隠し、淡い光を放つ少女の姿をした触角だけを晒して獲物を誘い込み、飲み込んでしまう。その性質ゆえ攻撃されることに不慣れな面があり、特に口内は大きな弱点。

ダゴン(Dagon)

バエルと同種の悪魔だが、適応した環境が違うために体色が異なっている。それ以外の面では全く同質の悪魔であり、有している弱点にも変わりはない。

エキドナ(Echidna)

魔界の深奥に広がる巨大な森の主。意思を持つ種子をふり撒き、他の悪魔を宿主として、魔界の植物を繁栄させようとしている。龍を思わせる外観をしているが、その本体は花卉に包まれた女性型の体。

アグナス(Agnus)

魔剣教団の技術局の長。カトラスやグラディウスもアグナスが開発したもので、これらの悪魔を意のままに操ることが出来る。

アンジェロアグナス(Angelo Agnus)

アグナスが「帰天」と呼ばれる儀式で悪魔化した姿。羽のような器官で自分が生み出した擬似魔界に接触して無数の悪魔を呼び出す事が出来るが、それにはかなりの体力を消耗してしまう。

アンジェロクレド(Angelo Credo)

クレドが「帰天」とよばれる儀式で悪魔化した姿。
その左腕に供えられた楯は、教団を守護せんとする彼の高潔な信念の象徴であり、
いかなる攻撃も弾き返してしまう。

神(The Savior)

魔剣教団が生み出した最大にして最強の人造悪魔。
神を見紛う美しい外郭の内側には、何万という悪魔の肉と魂が溶け合っており、
強大な魔力を持つスパダの血と、魔剣スパダによって初めて制御が可能。

偽神(The False Savior)

もはや形骸化してしまった神の肉体とサンクトゥスが完全に同化した姿。
力だけなら神には遠く及ばないが、そのおぞましい執念には注意を払わなければならない。
その醜悪な顔に渾身の一撃を叩き込め！

サンクトゥス(Sanctus)

魔剣教団の長にして全ての黒幕。
「帰天」と呼ばれる儀式により人を超えた力を身につけているが、
他の騎士と違い、肉体系において大きな変化は無い。
しかしその代替として他を圧倒する強大な魔力を得ている。

魔皇サンクトゥス(Sanctus Diabolica)

サンクトゥスが「帰天」と呼ばれる儀式で悪魔化した姿。
儀式によって得た魔力が魔剣スパダと共鳴する事でさらに増幅され、
並みの悪魔とは比にならない魔力を得ており、その魔力が体をも変質させている。

ダンテ(Dante)

伝説の魔剣士スパダの息子にして自身もまた伝説となりつつある最強のデビルハンター。
魔剣リベリオンと2丁拳銃工ボニー & アイボリーを操り、数多の悪魔を屠ってきた歴戦の強者である。
